

# 日本と日本人を豊かで幸せにする資産形成の本質

インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

加藤 航介

長寿化が進む中、資産形成の重要性は高まるばかりです。私からは、長期の資産形成への心構えと考える、以下の3点をお伝えさせていただきたいと思います。

- **自分とお金という「2つの資産」の国内・海外バランスから資産形成を考える**
- **「世界の一人当たりの豊かさ」を意識する**
- **金融商品を通じて自分と世の中を共に豊かにする「社会参加」をする**

## 1. 「金融資産」を選び始める前に、自身の「人的資産」の特徴を見つける

資産形成と聞くと「どの金融商品を買うべきなのか？」と考えてしまいがちですが、それは資産形成の出発点として正しくありません。より大きな視点に立って、自身の人的資産の存在と属性を理解し、人的資産と金融資産を合算した「真のポートフォリオ」を考えることが大切です。先進国に生まれた方々は、預金、株式、投資信託などの金融資産、持ち家などの不動産資産以外にも、給与や年金にひもづく「人的資産」という大きな資産を保有しています。そして、誰もが持っている人的資産の中身が、国内と海外にどのように分散されているのかを考えることが、資産形成を始める最初のステップになるでしょう。

人的資産とは、現役世代では将来に稼ぐ見込み収入額、退職世代では将来受け取る年金の見込み額の現在の価値であり、その額は一般に数千万円～数億円にもなります。人的資産は「健康、教育、働く意思、年金の受給権」などの要素で形作られますが、日本で生まれ教育を受け、日本の労働市場に属し日本人の顧客へ向けて働く多くの方の人的資産は、主として「国内資産」となります。これは、日本国や日本企業から年金を受け取る退職世代の方も同様です。

人的資産が日本資産である方が、日本の預金、国債、株式のみを保有している状態であれば、そのポートフォリオは日本資産100%という大変に偏ったものになります。このような自国資産100%のポートフォリオは、アメリカ人など特殊な立場にある一部の人を除いては、適切なものではありません。かつて高度経済成長下にあった昭和の日本においては、人的資産と金融資産の両者を日本へ「超」集中投資することは、たとえ本人がそれを意図していなかったとしても、結果的に正解でした。ただし、それは30年以上も前の正解です。平成や令和における日本の世界での立ち位置を考えれば、そのようなポートフォリ

オで人生を過ごすのはバランスが悪すぎるのですが、日本の多くの方は昭和型の「意図せぬ国内への超集中投資」を一番安全な状態と思い込み、それを続けてしまっています。

日本は治安、おもてなし、健康・長寿、文化、インフラなどの点で大変に優れており、素晴らしい国であると思います。そして、国籍などにひもづく人的資産の特性は簡単に変えることはできません。しかし、我々は身軽な金融商品を使い、自身の真のポートフォリオのバランスを時代にあったものに自由自在に変えていくことが可能です。つまり「生活の基盤と金融資産の投資先を分けてバランスを取る」ことで、素晴らしい国に住みながら、時代にあったバランスの良い人生を送る土台を作ることができます。かつては海外資産への投資には各種手続きや手数料などの高いハードルがありましたが、現在は個人がそれらに自由にアクセスできる十分な環境が整っています。

これからの資産形成においては、世界経済と共に歩みながら、世界の大きな富を自身に取り込んでいくこと、つまり海外投資を当たり前状態にしておくことが求められていると思います。これは人的資産と金融資産の両者に言えることです。かつての日本が国を開き、国際貿易で豊かになったことと同様に、個人が海外との結びつきをより強めることが大切です。貿易・サービスの輸出入などフローの世界を超えて、ストックの世界でもグローバル化を進めていくということです。そして海外資産を広く保有することは、我々の誰しもが明日から容易に実行できるのです。

海外への投資と聞くと心理的な抵抗がある方が多いかもしれません。「一生、日本に住み続けるので海外への投資は必要ない」という考えをお持ちの方は、日々の生活をよく観察してみてください。世界経済は密接につながっており、我々の日々の生活には石油や食料品だけでなく、海外からの製品・サービスがあふれています。そして日本発の製品・サービスがなければ産業や生活が成り立たないのは、世界の人たちも同じです。世界の中で長期的な購買力を保つために、グローバルな視点で自らの資産のバランスが取れていることが、世界中の人々にとって重要なのです。また「日本のために、日本人は日本へのみ投資をするべきだ」というのは、全く時代遅れの鎖国的な考え方です。日本のような豊かになった国がさらなる豊かさを得るには、①他国の富を自国への投資として呼び込むこと、②自国の富を国内外の垣根なく投資していくこと—の両者をどれだけうまくかじ取りできるかが鍵になります。世界の国々が、いかに国を閉じるかではなく、いかに国を開くかを競い合っている事を忘れてはなりません。

## 2. 金融商品の長期の利回り目標として何を意識すべきか

資産形成における金融商品への長期投資は、長い航海のようなものです。個人の方が金

融市場の短期の値動きに振り回されず、大海原を進む長期の航海をしていく上では、何らかの長期の利回りの目標を持っておくべきでしょう。「世界の一人当たり名目GDPの長期の成長率」を意識しておくこと、つまり世界の人々の生活水準への意識が大切です。

その理由は以下の二つからです。一つ目は、金融の投資から得られる長期のリターンは、いかなる時も実体経済における成長、つまり社会の豊かさの増加がその源泉となっているからです。金融商品からの収益とは「その投資により、実社会が豊かになり、その豊かさの一部を後から受け取ること」であり、金融市場で売買を繰り返し、短期でいくらもつけた、損をしたというものではありません。二つ目は、世界の人々の生活水準の成長率が、世界の中で日本人が生活水準を維持していくために必要な購買力の高まりを示すからです。世界の人々の生活水準が上昇すれば、他国の人々の賃金の上昇を通じて、日本で消費するモノやサービスの価格の上昇をもたらします。世界の人々の平均的な豊かさの増加に後れを取るような利回りの目標は適切でないでしょう。

世界の一人当たりGDPは、過去20年、年平均約4%成長しており、今後も過去と同水準の約4～5%程度の成長が継続することが見込まれます<sup>1</sup>。この水準を金融投資の長期利回りの目安として考えておくことが大切でしょう。また、投資の利回り目標として、実体経済の成長からかけ離れた高すぎる数値を目指すべきではないとも考えます。

### 3. 金融商品への投資とは、世の中を豊かにするための社会参加である

世界の成長を自身の資産形成に取り込んでいくためには、世界の主要上場企業の株式を幅広く保有しておくことが求められます。理由はシンプルで、経済とは民間の企業の活動によって作られているからです。株式投資とは、社会に豊かさをもたらす新しい活動の「応援」や、大企業が既存の社会の富を効率的に使っているかの「モニタリング」を行う仕組みです。そして特に欧米の大手企業の経営者は、自身の報酬の主要部分を株式で受け取り、かつ先数年間はその株式を売却できないことが常識です。投資家と経営者が常に「同じ船」に乗っていることが世界における株式投資の「当たり前」であり、皆さんが世

---

<sup>1</sup> 過去数値は世界銀行より、将来数値は各種資料よりインベスコが推計（世界の人口増加率 0.5～1%、実質 GDP 成長率 2～2.5%、物価上昇率 2～2.5%）。実質 GDP 成長率については、経済開発協力機構「The Long View: Scenarios for the World Economy to 2060」、PWC「The World in 2050」、世界銀行「Global Economic Prospects」、The Economist「Long-term macroeconomic forecasts」を参考。人口については国際連合「Our world in Data」を参考。物価上昇率については、国際通貨基金 IMF の過去 10 年実績値と先 5 年予測値を参考。

界のトップ人材と長期的に同じ経済的立場に立てるといふ公平さが存在しています。

長期に資産形成をしていく上での大切な心構えは、「他の人が豊かになると、自分も豊かになる」という輪廻（りんね）的な考え方であると思います。親が子供に投資をする、企業が社員や新製品開発に投資をする、国が学校や病院や道路などに投資するなど、投資とは「投資→成長→豊かさ」というサイクルに従っています。働くこと、ボランティアなどでの社会参加と同様に、皆さんのお金の社会参加は社会の成長や豊かさにとって必要不可欠なものです。

反対に、他人の損を受け取る活動であるギャンブル的な短期投資からは積極的に距離をおきましょう。コロナ禍でソーシャル・ディスタンスという言葉が広がりましたが、金融市場から適度に距離を置くマーケット・ディスタンスを心掛けることが大切です。

金融商品への投資とは、単にお金をもうけることではありません。お金の社会参加を実現し、個人と社会との結びつきを強め、両者を共に豊かにしていく活動です。他人の強みを応援し、あたかも選挙のように社会全体をモニタリングしていく行為です。そして金融商品とは、グローバル経済の中で、自分の人生のバランスを、これからの時代に合ったものに整えていく便利な道具なのです。私たち一人一人が人生のバランスを整えながら、社会を豊かにしていく投資・資産形成を行った先には、明るく素晴らしい未来が待っています。資産形成の力を通じて、豊かで幸せな社会を、皆で作り上げていきましょう。